

平成30年度学力向上研究指定校事業第2回連絡協議会・報告資料

## 平成30年度の実践の概要

学 校 名	登米市立加賀野小学校	主な取組教科	算数科	
研 究 主 題	課題解決の楽しさを実感し 主体的に学び続ける児童の育成 —「数学的活動」「高め合い」「振り返り」を効果的に位置付けた授業づくりを通して—		研究年次	1 / 3年次

## 1 今年度の主な学力向上の実践と成果

学力向上の実践	成 果	評価の根拠
数学的活動の工夫を通じた授業づくり	・具体物を操作したり、図や数直線、式を関連付けたりすることで自力で解決しようとする意識が向上した。また、話し合いでの発言が積極的になってきた。	・学習ノートの記述内容を見ると、自分の考えを持ちながら課題解決をしている児童が増加した。
高め合いの工夫を通じた授業づくり	・問いかけたり、ゆさぶりをかけたりすることで熟考するようになってきた。よく聞いたり、考えたりする意識・意欲の向上が見られるようになった。	・単元評価テストの結果を分析したところ、知識・理解の観点で半分以上の学級が1学期よりも2～6%到達度が上がった。
振り返りの工夫を通じた授業づくり	・他者の考えを理解し、学びを書き残そうとする意識の向上が見られた。ねらいに即した観点を示したことでより確かな振り返りを行うことができるようになった。	・ノートの記述から「何をどのように分かったのか」「どんな方法を使えば良かったのか」など次時の学びにつながる具体的記述へとかわった。
学習規律の確立	・学習規律や授業スタイルを統一したことで授業改善の話し合いの観点が明確になり、改善ポイントが分かりやすくなった。	・全学年の実践から指導改善のモデル図を確立することができた。

## 2 残された課題・要因と今後の方向性

課題・要因	今後の方向性
○授業の質的向上 指導過程の基本的なスタイルの確立に時間をかけたため	教材研究・理論研究や児童理解を深めたり、授業を見合う機会を増やしたりして授業の質の向上を図っていく。
○指導力の向上 熟考させるための手立ての検討に時間がかかったため	児童同士、児童と指導者の対話を促すための問いかけやゆさぶりの仕方をさらに検討していく。

◆登米市立加賀野小学校 研究関連 URL : [http://www.tome-svr.jp/~kagano-syo/html/?page\\_id=17](http://www.tome-svr.jp/~kagano-syo/html/?page_id=17)